ファイル「Macro.xlsm」のマクロ名「Macro1」はシート「Sheet1」で、以下の動作を実行します。

* セル A1 に "A" を入力します。
* セル A1 の内容 "A" をコピーします。
* セル A2 を選択し、値のみを貼り付けます。

マクロ名「着色解除」は、指定されたワークブックの指定されたシートのセルの書式と着色を解除し、成功した場合は "着色解除マクロ成功" を返し、エラーが発生した場合はエラーメッセージを返します。詳細は以下のとおりです。

* `Path`=CurrentDirectory+"\Data\"、`FileName`="Data.xlsx"、`SheetName`="Sheet1" は関数に渡される引数です。
* マクロ実行前に、ファイルCurrentDirectory+"\Data\Data.xlsx"のシート"Sheet1"で、任意のセルを塗りつぶし着色しておきます。
* エラーが発生した場合に `Err\_Exit` ラベルにジャンプするように設定します。

1. 通常処理

* 画面の更新を停止します。これにより、マクロの実行速度が向上します。
* 指定されたパス`Path`とファイル名`FileName`のワークブックを開きます。
* 指定されたシート`SheetName`の全セル範囲を `dRng` に設定します。
* セルの水平配置を標準に設定します。
* セルの背景色を解除します。
* アラートメッセージを表示しないように設定します。
* ワークブックを保存して閉じます。
* アラートメッセージの表示を再度有効にします。
* 画面の更新を再度有効にします。
* 関数の戻り値を設定します。

1. エラー処理

* アラートメッセージの表示を再度有効にします。
* 画面の更新を再度有効にします。
* エラーメッセージを戻り値として返します。